



SOCIETÀ DEL SACRO CUORE
CASA GENERALIZIA

2017年11月18日
ローマにて

聖心会シスターの皆さま
聖心家族の皆さま

2018年は、自らの使命とカリスマを境界の彼方で生きるという聖心会の勇気ある決断から200年となる年です。私たちはこの決断の時を、会の姉妹聖フィリピン・デュシェーンを通してお祝いします。フィリピンは、当時片隅に追いやられた存在に過ぎなかったアメリカ大陸の先住民に福音をもたらすという夢と信念の実現のために、四人の仲間と共にフランスを離れ、新たな地アメリカを目指して彼のレベッカ号で旅立ちました。フィリピンの人生の多くの事がそうであったように、この決断もまた、弛まぬ祈りと果敢な行動に根差したものでした。

フィリピン・デュシェーンの勇気と信念に基づいた行動の200周年を記念して、2017年11月18日に聖心会は、会員と全ての聖心家族にとって協働の機会となる、重要且つ相互に関わりを持つ二つの活動を開始します。一つ目は、今回のアメリカ・カナダ管区による200周年祝賀行事の一端として計画された、世界を結ぶ聖心コミュニティが作成し、そして分かち合う「国際祈りの一年」です。二つ目は、聖心会における日々の活動とJPIC（正義、平和、創造世界の保全）との関わりの、より深い融合の助けとなる聖心会全体を巻き込んだ対話です。この二つ目の試みは、国際JPIC委員会の提案によるもので、総顧問会の協力を得て委員会主導で行われます。i

第一に、私は皆さま一人ひとりを200周年記念の祈りの年にお招きし、聖心に連なるあらゆる人々からなる国際的な祈りの共同体の一員となっていただきたいと思います。この祈りの共同体は、聖心会員がイエスの聖心の愛を生き、分かち合う41ヶ国に広がります。2017年11月18日から2018年11月18日まで月曜日毎に、フィリピンの、神と神の民への熱い愛の基となった様々な主題について世界中の聖心会員によって準備された聖心家族の共同の祈りに参加してください。この新しい地球規模の祈りの共同体は、Eメールで、または聖心会のウェブサイト上で活動することになるでしょう。21世紀の技術革新の中で生きる私たちが、その技術を利することによって、ソフィの夢であった地球上に溢れる何千、何万もの「礼拝者」の一員となる事ができるなら、それは何と素晴らしい事でしょう。1818年、フィリピンのレベッカ号での船出は、この夢の実現に向けた大きな一歩でした。フィリピンの末裔である私たちの中で地球を網羅する祈りの共同体を結成することは、大きく重要な恩寵をもたらし、新たな活動のきっかけとなるかもしれません。

フィリピンと共に、そしてフィリピンについて祈る時、私の頭にはいつも一つの言葉が浮かびます。それは「persistent」（不屈の、忍耐強い、粘り強い）と言う言葉です。フィリピンは祈りにおいても行動においても、その通りの女性でした。アメリカ先住民ポタワトミの人々がフィリピンに捧げた「いつも祈っている女性」という名前をよく耳にしますが、目に浮かぶ光景はシュガークリークの丸太小屋で夜の静けさと沈黙のうちに祈るフィリピンの、ベールの先にぶら下がるとうもろこしの小さな切れ端が微動すらない様子を伝えるものです。フィリピンについてもう少しよく知るようになった最近では、夜を徹してご聖体の前で祈り続けるだけでなく、日々の生活の中の「試練、失敗、小さな戦い、神の民への熱烈な愛」のさなかで祈り続けるフィリピンのもう一つの顔を思い浮かべるようになりました。それはルカの福音書に登場する粘り強い未亡人や友人にも似ているかもしれません。聖心家族の中でのこの祈りの一年が、個々のメンバーにとって、また共同体として、静けさの中でも活動の場においても神との関係を強める機会となりますように、そして、私たちの使命に対する情熱を掻き立て、燃え立たせる聖霊の働きに資することができますようにと願っています。

ここから 2017 年 11 月 18 日に始まる対話の場へのご招待に話を移します。世界中の聖心会は、其々の JPIC（正義、平和、創造世界の保全）との関わりの度合いについてグローバルな話し合いに参加するよう招かれています。これは 2018 年 11 月フィリピンで開かれる国際 JPIC ミーティングへの準備過程であり、国際 JPIC ミーティングの開催は、2016 年聖心会総会で各管区がこれから対応しなければならないもっとも重要な呼び掛けの一つとして JPIC を指定したことに起因しています。聖心会総会も、教皇フランシスコも、私たちを世の中の周辺部へと呼んでいます。私たちの教育の使命は、世界の求めと私たちとの間に深い繋がりを生み、どこに住み、どのような形で教育の使命を果たすかについて、JPIC の役割が中心になるものと私たちは考えています。この呼びかけは、私たちの霊性から多くのものを引き出します。「イエズスの貫かれ、開かれたみ心は、私たちの心を開いて、神の深みとそして人間の惨めさを悟らせます。」（会憲 #8）。そして今や私たちはそれに「傷ついた地球の激しい苦痛」も付け足さなければならないのです。

聖心会の霊性と使命の二つの側面である祈りと正義が、共に 11 月 18 日に、私たちに一歩先へ、より深く踏み出すようにと呼び掛けるのは、フィリピンらしい計らいと言わなければなりません。フィリピンの不断の祈りと合わせることができるのは、フィリピン自身が粘り強く抱き続けた福音の具現化に対する夢と確信以外にはないでしょう。フィリピンは幼少の時からグルノーブルの路上で、貧しい人々の声を耳にしていました。

フィリピンは若い頃から貧しい人々への奉仕に惹かれ、そのことが原因で、社会環境を共にする集団とは早くから袂を分かつことになりました。慈善と奉仕は、当時の良家のカトリック女性にとって相応しい活動とされていましたが、フィリピンは他の女性に比べてもより徹底していたものと思われまます。訪問会に入会して始めた修道生活は、折からのフランス革命により中断を余儀なくされ、両親の家に戻ったフィリピンは、牢獄に繋がれたり官憲から身を隠していた神父たちの救援を主に行っていました。時代の考え方に沿ってフィリピンも宗教活動と魂の救済を最大の関心事としていました。しかしそれだけでなく、自分の身の安全を顧みず、フィリピンは病人や死に瀕した人へも援助の手を差し伸べました。驚いた親族が止めに入ると、フィリピンは言いました。「私を放っておいて下さい。恵まれない貧しい人の中におられる救い主にお仕えすることが私にとっての喜びであり栄光なのです。」言葉を変えれば、貧しい人々を援助することはフィリピンにとって天国という褒美を勝ち取るための手段では

なかったのです。そうではなくて、フィリピンは貧しい人の中にキリストを見ていたのです。彼らに奉仕すること自体が目的だったのです。 ii

同様にフィリピンは、グルノーブルの貧しい人々に奉仕した時と同じ熱情を持って、フランスやヨーロッパの国境を超え、彼方のアメリカの地の先住民に福音を伝えたいという夢を抱きました。彼女の夢は勇気に満ち、大胆なものでした。先駆者（パイオニア）であり宣教師（ミッシヨナリー）であり教育者であったフィリピンにとって、只一つの目的は新しい地に神の御言葉を広めたいというものでした。フィリピンは高い聖性と同時に人間らしさも持ち、時には新天地アメリカの人々に戸惑い、時には自分の失敗に絶望して苦しみ、時には権力に立ち向かうよりも、不本意に思いつつその時代の常識に従うこともありました。しかしフィリピンは、どのような時にも神を人生の中心に置き、最後まで使命を生きた女性でした。

フィリピンと共に祈るこの一年が私たちの観想する力を養い、心の中で、私たちを取り巻く世界の中で、神の鼓動を聞くことができますように。ソフィとフィリピンのように、私たちもイエス・キリストの聖心の愛に、全てを捧げて応える事ができますように。私たちが夢想することも見ることもできない、福音の描く「皆が一つになる～」世界を信じ、勇気と信頼と不屈の精神を持って行動し、夢を実現させることができますように。

一つの心に愛と祈りを込めて



Barbara Dawson RSCJ

訳：中山洋子

月曜日ごとの祈りにフランス語、英語、またはスペイン語でアクセスするには、
WWW.RSCJINTERNATIONAL.ORG 又は WWW.RSCJ.ORG
が 2017 年 11 月 18 日より利用できます。

i You will find more detailed information on each of these events as well as many other bicentennial opportunities on the Society's websites : www.rscjinternational.org, www.rscj.org, as well as on provincial websites.

ii Excerpt from the talk *Lives that Matter: Philippine Duchesne and Solidarity Across Frontiers* Catherine M. Mooney, Sacred Heart Forum -St. Louis University – July13 2017